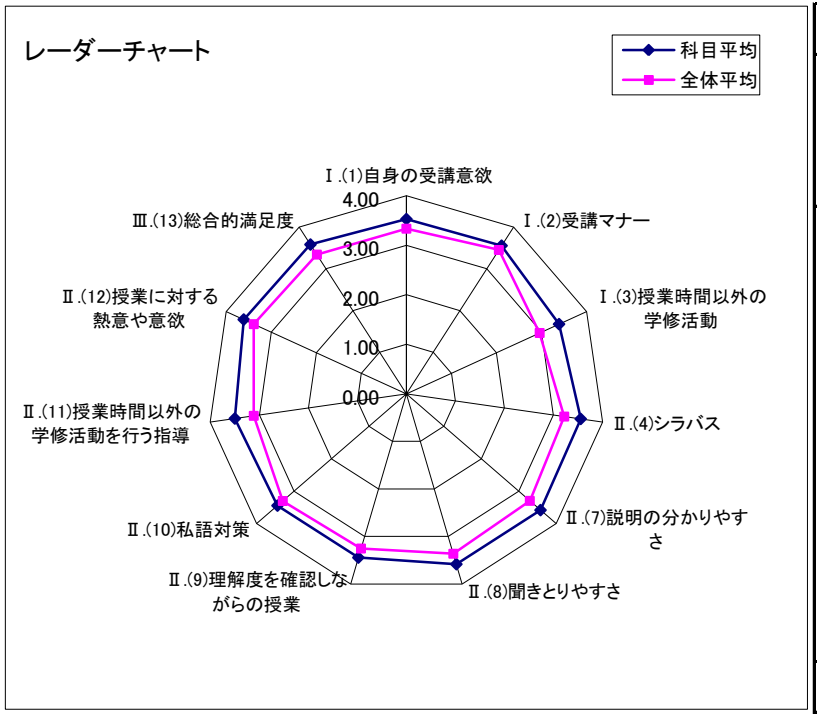
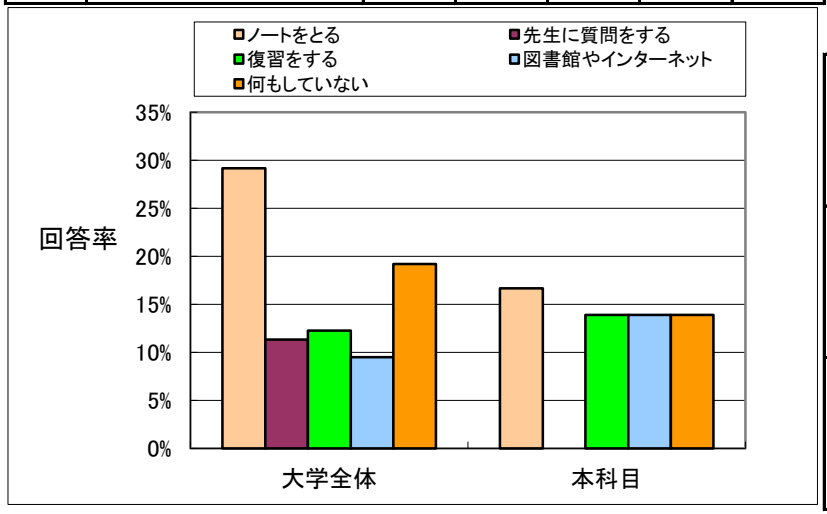
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.53	3.33
	Ⅰ.(2)	3.56	3.45
	Ⅰ.(3)	3.39	2.96
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	3.56	3.22
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	3.58	3.30
	Ⅱ.(8)	3.58	3.36
	Ⅱ.(9)	3.44	3.25
	Ⅱ.(10)	3.44	3.30
	Ⅱ.(11)	3.50	3.11
	Ⅱ.(12)	3.61	3.39
総合評価	Ⅲ.(13)	3.58	3.34

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

<※複数選択可項目>		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(14)	授業を理解するための工夫	16.7%	0.0%	13.9%	13.9%	13.9%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.49	3.25
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(12)	3.53	3.28
総合評価 Ⅲ.(13)	3.58	3.34

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2013年度　後期
時間割番号	3403
科目名	日本人の労働を考える
教員名	

①授業計画の達成度について

回答の選択肢が昨年度から変更されているため、直接の比較ができないのが残念であるが、設問4については、昨年度においては4分3が肯定的な回答を寄せていた。本年度は一人を除く全員が肯定的な回答を寄せており、この点においては改善されたということであろう。昨年度もシラバスを読んだ学生は9割以上が「役だった」と答えていたので、シラバスを読ませる、読まなければならないものであると意識させるという工夫が成果を上げたと言えるだろう。
設問5については、本年度も4分の3以上の学生が難しいと感じている。特に留学生には少し内容が高度であったかもしれない。その一方で設問6において約半数の学生が「難易度が低い」と答えており解釈に迷うところである。

②授業の進め方について

設問7は95%以上の学生が説明が分かり易かったと感じている。また設問8の聞き取りやすさについても95%の学生が聞き取りやすかったと感じている。留学生にもわかるように配慮しつつ説明し、話をしたことが奏功したのであろう。
設問9については多くの学生が肯定的に評価する一方、1割弱の学生が理解度の確認について「あまりそう思わない」を選択しており、より改善していきたい。
設問10については数年前のアンケートで私語の多い授業であると評価されたことを思い起こせば、90%を超える学生が私語が少ないと回答していることは喜ばしい結果である。私の主観的には決して私語がなかったわけではないと思うのだが、気にならなかったということであろうか。また私語に対する対策をしていることが評価されたのであろうか。
設問11については80%以上が学習活動の指針を得たと考えている。レポートを提出させ、評価に繋げたことが、彼らの学習意欲を刺激したのかもしれない。テキストを指定し、講義の内容が確認できることも予復習をやりやすくしたと思う。全設問の中で設問12についての評価が最も高い。私の唯一の自負が講義に対する熱意のみであるので、これは嬉しい評価である。
設問13については一人を除いて満足であると言う回答を得た。学生が満足してくれるかどうかということが最も重要なポイントであるので少しほっとしている。設問1で受講意欲が高くないと答えた学生が一人だけいる。クロス集計をしてもらいたいと思うが、この学生が不満だと答えているのだとすれば、ある程度仕方ないかと思うが、受講意欲があるにもかかわらず、不満だと答えている学生がいるとすれば、是非とも改善したいと思う。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

最初に述べたように回答の選択肢が変わったので単純に比較できないが、昨年より全体に学生からの評価が高くなった。私自身もより良い講義を行うよう努力しているが、率直に言って学生のレベルの変化が反映しているようにも思う。図書館やインターネットを利用して授業を理解するための工夫をした学生の割合が、他の授業の平均と比較して約1.5倍に上る。授業を理解するために大いに努力してくれたのだと思う。自由記述欄もこれまでと比較すれば記述が多く、内容的にも「優しい先生」「いい先生」という記述がほとんどである。率直にうれしいといえばうれしいが、学生としての批判精神が少し足りないのではないかと思わないでもない。私は決して「やさしい」「いい」先生ではないと自己評価しているので、あまりに従順なアンケートには少々違和感を覚える。もちろん悪口を言ってほしいわけではないので、有難い限りであるが、もう少し学生を挑発するような、「なにくそ」と思わせるような授業をしたいと思う。

奈良産業大学